

# 日本洋書協会会報

Vol. 34 No. 11 (通巻402号) 2000年11月

## ミレニアムのフランクフルト書籍展—雑感

書籍展出張二十数年目の今年も、ブースに向かう初日の朝にはいつもの同じ気持ちが戻ってきた。各ホールへ向かう通路にはたくさんの人が続々と列を作って歩き、この国籍も分からない程数多くの全員が何らかの形で出版を職業としており、自分もその一人なのだと感じて昂揚と安心を覚えたのはまだ書籍展に通い始めの頃だった。インターネットの時代、世界最大の書籍展ではあっても、目を剥くような大事件ばかりが起る訳でもない。今年も驚くことはないという貪欲な声も聞こえるが、人と本が集まればやはりドラマとなる。

(主催者によると期間中総入場者数：302千人、出展者数：107ヶ国、68百社)

各ホールをつなぐ動く歩道付きの回廊が出来、一旦中にはいると外の天候も気に掛からなくなってからもう何年もたつ。大手出版社のデザインをこらし通路をまたぐ大きなブースも、科学技術関係の版元を集めた4号館2階では、華美とは見えない。

南江堂のブースは左右奥行き共2メートルというスペースも経費も最小で続けている。今回のように5人で行くとお客は勿論自分達にも椅子が足りない有様となる。日本語の出版物を探す人は少ないし、話の可能性のある版元は見当が付き、いわば会場を歩き回る合間の各人のベンチという目的だからこれで十分、普段は誰も座っていない。このホールの日本からの出展者は、販売で丸善、紀伊国屋、版元では医学書院、培風館、学会出版センタ

ーと南江堂が常連。日本関係の多くは第8ホールの国別セクションに集まっている。

世界の科学出版社の集まりとして International STM Association は経営者の交歓、IT最先端情報技術の実践、複写権団体との交渉、編集や販売担当者の教育、書籍団体や図書館との交流など多彩な活動を続ける利益団体である。日本からも自然科学書協会の背景に医学書院の金原社長を継いでオーム社の佐藤社長が現在理事として活躍しておられる。この STM の総会が書籍展の開始日直前の火曜日に必ず開かれる。今年の総会で新会長として、American Chemical Society の Mr. Bovenschulte が選出された。初めての学会系出版社からの会長である。本人は、「雇用なき仕事」についてと挨拶したが、非営利出版の安定と商業出版社、更に大手の最近の傾向を何らか反映しているかのようである。

同業者が多く集まれば噂が流れ、期間中に合併や買収のリリースがあるものだが、今年の話題はある社の動向に集中していた。これは書籍展の終了した週の金曜日10月27日大手2社による異例な共同提案による分割前提の買収で決着となった。20億ドル以上の売上げの教育出版社が、その倍額以上で売れるのも驚きだが、出版事業に資源を集中して発展を図ると思われていたが、株主の更なる利益のためとして、一転自らを売り出しその目的を遂げるとするのは、変貌が会社の姿というアメリカにあってもただ圧倒される。

### 目次

ミレニアムのフランクフルト	海外ニュース	3	パソコンで英文を作って
書籍展—雑感	出版文化史逍遙(50)	4	発信する
理事会報告	新・パソコン外論考(其10)	5	広告
			6・7
			8

書籍展にはこれだけ出版社が集まるのだから、出版界に関連する業者が集まってくるのは当然である。印刷業、運送業、代理店業務者、販売業者等様々である。各版元の翻訳権の担当者は1日中30分単位のアポイントを1ヶ月以上も前から練り上げて会期の全日程をブースに縛られて過ごすという。社長など幹部クラスは夜が忙しく会場には最初の2日間だけという人が多いようだ。ブースを持たない人も当然いる。筆者も一人で交渉と買入に歩き回った十数年後、出版部の同僚に同道して貰い、ブースを持つようになった。

英国系の商業医学系出版社の数は今では減ってしまった。古典的な売上げ減による経営難そして吸収合併という形はもう終了した。アメリカの系列になったかと思うと今回のように国際的な大コングロマリットの一部となる例もある。買収された会社の役員が個人で会社を興す例もあるが、安定するには時間がかかる。特色あると思われていた新興の版元が大手との販売の提携段階から合併という場合もあった。医学系だけで、一時は10社以上あったうち、現在名前が残っているのは数える程、しかも皆大きな組織の一部門としてである。ここでも非営利といえる何社かが健闘している。

アメリカでは勿論、ヨーロッパの巨大グループの傘下に入りどうやら imprint として名を残す版元と、スピノフした零細な新興のそれとに収斂していくようである。対してここにきて前述のように非営利出版社の安定的な存在が露出してきたようである。

ドイツと日本では、独自言語の出版が盛んで中小版元の数が多く更に取り次ぎによる流通が発展し、医学系で言うと学会出版よりは商業出版への傾斜、製薬業界が盛んといった点、おまけにアマゾンの出店までその共通点は多い。東西ドイツの合併は、東西に分断されていた出版社の合併を促し、電子時代への対応は莫大な投資を要求して、On Line 出版の最先端を走る代表的な医学科

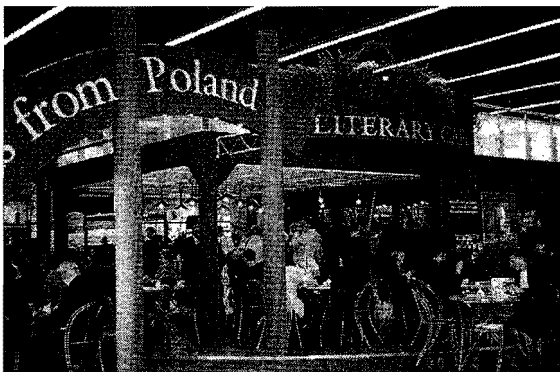
学出版社も、大手版元の後ろ盾を得る事となった。ここはアメリカの一般大手出版の一角も買収して世界的プレーヤーの一社となり、日本でも一部事業の提携をしている。同じくドイツを代表する別の出版グループもある。有名科学誌を含む英国の名門社を買収で入手し、類似社を通じてアメリカにも橋頭堡を築いている。

アメリカやヨーロッパ系の大手版元のいくつかは情報産業を経営の主体として世界的模様で取り囲もうとしている。アメリカを始めとする学会系非商業出版社は互いには協力しながらもコンテンツは尊重しあい粛々と地歩を固めている。同族企業とローカルな言語で守られた日本の出版界に世界への出番はくるのだろうか、低成長ながらもそれなりのサイズの独白のマーケットを維持できるのか、或いは成長率逆転のまま苦闘が続く中に外資が触手を伸ばすこととなるのか。

業界の環境はどうあれ人は食わずにはおられず、昼食の時間が幸い取れば、コーヒー、ビール軽食を提供するコーナーを訪れる。食事を提供する場所もきれいになり数も増えたが、やはり細めのソーセージと手のひら大のパンが書籍展には一番似つかわしい。塩気のきいた固いパンをビールで喉に流し込むのも慣れれば味がある。夜はパーティーで交歓となる。日本総領事館が初日の夜ホテルで開く会を楽しみにしている人は多い。その他、毎年大きな会を開く会社、何周年を機会に招待状をくれる社もあり、最近増えたブースでワインの立飲み会を巡れば結構良い気分となる。市内の気の利いたレストランでは内輪の会、親しい会社同士での会、代理店を呼んでの会が開かれ満席である。その昔、亡くなられた三洋出版貿易の鈴木社長が音頭を取り洋書協会の仲間がザクセンハウゼンの歌と踊りの大食堂に繰り込んだのも今となっては懐かしいばかりである。

(株) 南江堂 高橋 正男

(写真提供：アカデミア・ミュージック(株) 平岩 寧氏)



## 理事会報告

10月30日(月)

- 2000年度上半期(4~9月)の収支に関する事務局長報告を承認した。
- 以下の委員会報告を了承した。
  - ・現在正会員として4社、賛助会員として3社に入会を働きかけている。現会員の関係企業への入会呼びかけを再度要請したい。また現会員の協会に対する要望を知るためにアンケートなどの実施を考えている。更に文化厚生委員会の協力を得て関西地区会員との交流の場を設け、会員増強につなげたい。(会員増強委員会)
  - ・2000年版ダイレクトリー(印刷体)の売行きが例年に比べて芳しくない。協会ウェブサイトには会員向けニュース、掲示板を試験的に載せているのでご覧いただきたい。ASAなどの海外Agencyにリンクを張るなど更にコンテンツを充実させ、会員に役立つウェブサイトとしたい。(ダイレクトリー委員会)
  - ・会報のデザイナー新を計画している。準備が間に合えば2001年1月号から実施したい。(会報委員会)
- (株)フランス図書(1975年入会)の9月30日付退会届けを受理、承認した。
- 2001年のTIBF(東京国際ブックフェア)イタリア年委員会発足とパピリオンの概要、並びに今後の活動方針について鈴木理事長(同委・委員会)の報告を了承した。以上

## 海外ニュース

### REEDますます巨大化

REED ELSEVIERはHARCOURT GENERALを買収した。買収金額は45億ドルプラスHARCOURTの負債12億ドルの引き受けである。アナリストは合計59億ドルの買収金額を妥当だと見ている。この買収交渉が完了した時点で、REEDはHARCOURTの教育部門(NETglobal, Assessment Systems, Inc., Drake Beam Morin)をTHOMSON CORP.に20億5千万ドルで売却する予定。1999年11月~2000年10月のHARCOURTの売上高は約23億ドルで、THOMSONによると同社が買い取る部門の収入は約7億5千万ドルになるだろうとのこと。

REEDはHARCOURTの部門のうちK-12 Education & Testing部門、Science, Testing & Medicalグループ(W. B. Saunders, Mosby, Academic Pressを含む)を保持する。K-12グループの一部であるTrade部門もREEDが保持するが、同社としては一般書を扱う気は無いので、将来的には売却の可能性がある。

REEDによると、ELSEVIER SCIENCE内にScienceとMedicalの二部門を新設し、HARCOURTのSTMビジネスをそこに吸収させる意向とのこと。合体した新部門はMr. Derk Haank, CEO(ELSEVIER SCIENCE)が統率する。

REEDは既にアメリカ国内に何社かの学術書出版社を所有してはいるが、今回のHARCOURT School Group買収により、アメリカの学校向け専門書出版に進出した最初の英国-オランダ資本出版社となった。このSchool Unitの1999年売上高は7億8,700万ドルで、Testing Groupの収入は1億5,900万ドルであった。アメリカでの教育書出版ビジネスは、Mr. Anthony Lucki, CEO(HARCOURT EDUCATION)が統率するが、REEDの全ての国際的教育出版部門を統率する人材が別に任命されることになっている。

REEDは今後2年間で約7千万ドルの経費削減を目標としており、マサチューセッツ州ニュートンにあるHARCOURT本社を閉鎖することで2,500万ドルを節減する予定。

PW DAILY FOR BOOKSELLERS/October 27, 2000

## お知らせ

### 事務所を移転しました

会員名：有限会社 緑書房

新住所：〒560-0082

大阪府豊中市新千里東町 1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル 12階

TEL:06-6831-2828(代)

FAX:06-6831-2847

営業開始日：2000年11月6日

## 洋書の歴史雑記帳〔V〕 吉利支丹と洋書(5)

鈴木陽二

## ◆天正遣欧使節の持ち帰った洋書(2)

使節団が室津で諸大名に披露した贈り物に、書籍も含まれていた。イタリアのイエズス会士ダニエル・バルトリ編『耶蘇会史』(『大日本史料』)には、「アブラハム・オルテリウスの地図、並びに海岸、島嶼を記した海図を有したり、また地理書の中には支那に於いて複製、着色せられたる大型のイタリヤ図あり、縁を黄金にて飾り、各都市を各その位置に美麗に書き、殊にローマを最も見事に著したるものなり、そのほかに、ヨーロッパの音楽書、(中略)アルミラリー=天球、全天球儀、全地球儀…」などと記されている。さらに付け加えると、「活字を集めて用ふる印刷機」を所持していたことも述べられているが、この活版印刷機によって、いわゆるキリシタン版が数多く製作されることになる。

贈られた書籍の中で書名が判明しているのは、上記バルトリの文章にもあるオルテリウスの世界地図である。フロイス『九州三侯遣欧使節行記』(岡本良知訳)やデ・サンデ編述『天正遣欧使節記』(泉井久之助他訳)によると、パドワ(イタリア)の修道院で4冊の書物が贈られ、その第1冊がオルテリウスの『世界の舞台』(Ortelius Theatrum orbis terrarum. 1570)であり、残り3冊には世界の有名な町々の図が入っている、と記述されている。後者はブラウン=ホーヘンベルク『世界都市地図帳』(Georg Braun & Franz Hogenberg “Civitas orbis terrarum” 1573-1618)と見られており、三好唯義先生は、この都市地図帳は最終的に6冊刊行されたが、使節が贈られたのはそのときの既刊分3冊であったと記している(『図説世界古地図コレクション』)。

大航海時代(15世紀~17世紀)の探検成果を受けて、16世紀中期以降に多くの地図が製作され、キリシタンの来航に伴って日本にも流入した。これらの地図の影響で、日本で世界地理への関心が高まり、地図をモチーフにした屏風絵など、いわゆる南蛮地図が次々に製作されたが、それについては次回に述べることにしよう。

地図以外では、次のようなものがあった。スペイン通過のおり、グアダルベ修道院長より「聖母の奇蹟を記す美しい写本」が贈られた。書名は不明であるが岡本

良知先生は「極めて美しい写本にして彩色ある羊皮表装の書」であったろうと推定し(フロイス『九州三侯』の訳注)、この本が日本に舶載されたことを重要視している。スペインではまた、モンセラート修道院長から「修道院の由米や靈験について編述された書」が贈られた。ローマを訪問した折りには、たまたま教皇グレゴリオ13世が死去して教皇シスト5世が襲名する出来事に遭い、新教皇からは「ローマの古事並びに歴史に関する書」2種類が贈られ、また新教皇がラテラノの聖ジョヴァンニ教会へ行幸したときの様子を記した本「サン・ジョヴァンニ・ラテラノ受領の儀式などを説明した書」が贈られている。そのほか、「鳥獣の猟に関する書」「ポルトガル国王ドン・ジョアン二世伝」、「彌撒典書」「日中祈祷書」「海図」「音楽書」などが見られる。

遣欧使節がヨーロッパ各地を訪問したおりに、使節団に関する書籍が数多く編纂・刊行された。1585年1年間だけでも48種類も出版され、さらにその後1593年までに90種類も発行されたという。地域別に見ても、訪問地のポルトガル、スペイン、イタリアはもちろん、ドイツ、ガリシア、フランス、ベルギー、ポーランド、スイス、チェコスロヴァキアなど、ほとんどヨーロッパ全域に及んでいる(松田毅一『西洋との出会い』上)。そして、使節団はその出版物の幾つかを日本に持ち帰っているが、その中でもっとも充実し資料的価値の高い書は、グアルチュリ(Guido Gualtieri)が編述し1586年にローマで刊行した“Relationi della Venuta degli Ambasciatori Giaponesi”で、これは太田正雄(木下柰太郎)の訳で昭和8年に『日本遣欧使者記』として刊行された。また、『天正使節羅馬法王接見記』(Acta consistorii publice exhibitio A. S. D. N. Gregorio Papa XIII)は、教皇グレゴリオ13世の使節団謁見の際ガスバル・ゴンザルヴェス(ポルトガル人イエズス会士)が行った演説と、九州3大名の書簡、アントニオ・ポッカバズリー台下の答辞が掲載されており、1585年の謁見直後ローマで刊行され、使節団訪欧に関する貴重な文献のひとつになっている。〔参照文献：岡本良知『桃山時代のキリスト教文化』〕(元丸善・本の図書館長)

## 新・パソコン外論考 (其10)

宇田川一彦 Udagawa Kazuhiko

◆I get along without you very well./あなたがいなくてももうまくやれるわよ。

子曰、君子成人之美、不成人之惡、小人反是、

The Master said, 'The Gentleman helps others to realize what is good in them ; he does not help to realize what is bad in them. The small man does the opposite.'

(論語/顔淵・Confucius ; The Analects/Book XI)

【超拙意訳；先生が言われた。「君子は、他人の善き事を実現達成するために手助けをします。他人の悪しき事には手をかすことはしません。ところが、小人はこの正反対の事をやりますね】 【自注；筆者大好き】

### ★パソコン英語余談

Crusoe (クルソー)、新登場のCPU名です。

年末商戦を睨んで、新手のCPU (=中央処理装置 Central Processing Unit) を搭載したノートPC (パーソナルコンピュータ Personal Computer) が、NEC、富士通、日立などから陸続と登場しました。この新CPUは、アメリカのventure企業 Transmeta (通常は訳さずママのトランスメタ社、あえて訳せば、「超置換」社)が、「超効率」に的を絞って本年1月に開発したものです。このCPUが、圧倒的シェアを誇る件のIntelペンティアム系のものでないのが嬉しいのです。このPentiumは、同社の5番目の代にあたるCPUということで、Pentaの5の意味からの合成語です。現在の流通しておりますCPUは、この手の合成新語がほとんどです。由来は「車」のネーミング以下というのが実情で……。まあ、日本車にも赤面するような小公子、青い鳥、王冠、行軍、超能力とかのネーミングが……。

閑話休題。Pentium、Celeron、Athlon、Duron、K6などのネーミングと違って、「Crusoe」という名前は、由来が推論できます。かのDaniel Defoe (1660~1731、イギリスの小説家)の作品「Robinson Crusoe (1719)」でしょう。経済的合理主義の精神で漂着した無人島での生活を描いた冒険小説。このCrusoeというCPUのウリは超省電力=したがって超低発熱、故にPC雑誌の記事だと8時間持ったとか、6時間はイケルとかの結果広告(報告)を喧伝しています。これは、現行ノートPCの泣き所であるPC操作時間の短さ、勿論battery駆動

による操作、持って3時間、通常は2時間弱(筆者の経験では1時間持てば可と思っていましたが)という短所を捕うものです。まあ、漂着生活に堪えられるほど長時間ということではありませんが、1/4日もbatteryが持つという事は、今日のノートPC世界では画期的なことなのでしょう。このCPUの超省電力=超低発熱の発想は、超高速CPU故の宿命、高発熱を逆手にとった考えです。CPUそのものはIntel系のCPU互換という発想ではなく、CPUの命令を、Crusoeの命令に「逐次翻訳」していくソフトウェア Code Morphing Software (=CMS)と組合わせていくことで、スピード犠牲(高速犠牲)故に低発熱、省電力を実現したことです。

かつて60年代に米国で人気を博したTV番組「Paladin」の主人公(軍人上がりの探偵兼用心棒)の名刺に刷ってある「Have Gun Will Travel」(=ガン保有即刻参上)という様に、ノートPC所有、Internet関係商売のカタカナ職業人の「Have Crusoe Will Travel」刷ってある名刺を、ケツと折り曲げる日がくるかな？

### ★Internet関係のパソコン英語\*\*\*\* (6)

前回紹介しました英国人の畏友から、e-mailが入りました。そのアドレスは、xxxxx@havenhay.demon.co.ukでした(xxxは友人名)。

今回は、この最後にあります国名コード(いわゆるドメイン名 domain=専門範囲)を見てみたいと思います。勿論、【jp】=日本、最後に何もないのは=u.s.a. 米国です。これは、Net発祥の国の最大の特権で国名は不要となっています(したがって、このアドレス欲しさに我が友人の約2名が米国のproviderと契約しています)。

ただ、【us】=米国というコードあります。要注意。

また、米国領のGuamは【gu】です。英国は、既述のように【uk】と【gb】があります。あとのgbは、Great Britain。中国は、【cn】=China、とHong Kongの【hk】。うん、【tw】=Taiwanがあります。

【at】=Austria、【au】=Australia、【ca】=Canada。

【de】=Germany、【dk】=Denmark、【fi】=Finland。

【ie】=Ireland、【il】=Israel、【in】=India。

【it】=Italy、【kr】=Korea、【nz】=New Zealand。

【no】=Norway、【nl】=Netherlands、【pl】=Poland。

【ru】=Russian Federation、【se】=Sweden。

【sg】=Singapore、でエッ？が【ch】=Switzerlandでした。The Swiss Confederation(スイス連邦)のフランス語読みでしょうか？(乞御教授)以下次号。

## パソコンで英文を作って発信する

島岡 丘

最近では少子化の影響で児童たちを対象としていた塾などは景気がよくないらしい。そこで先見性のある起業家は年輩者を対象にパソコン教室を開いたところ、どこも繁盛しているそうである。年輩者は金銭的にゆとりがあるばかりでなく、学習法や理論的構築力などを身につけており、パソコンを生まれて初めていじった人でも、2、3ヶ月もパソコン教室に通えば、ホームページを開けるまでになってしまうようだ。このことは定年で退職した多くの人たちに生き甲斐を与え、同時に日本全体を活性化することになるかもしれない。

パソコンが便利がよいのは、第一に、受信ばかりでなく、自ら発信することができるということだろう。受信のほうは、e-メールアドレスさえ知らせておけば、世界のどこからでも瞬時にメッセージを受信することができる。また、発信のほうも、相手のe-メールアドレスさえ分かれば、いつでもこちらの画面に表示したものを送信することができる。

パソコンを使ってもう一つ便利に思うのは記録性があることだ。ファイル機能でパソコン器械そのものに記録することができる点である。またフロッピーに記録すればどこへでも持ち運びが出来る。昔は手書きやタイプライターだったから、何度も書き直すことは骨が折れた。今では修正、加筆が自由自在である。私の同僚の一人は、ドイツ語で論文を仕上げたら、ドイツの大学にいる専門の教授のところへ送信し、いわゆるネーティブチェックをしてもらって、より完全な論文に仕上げ提出しているが、その発信や受信が即座にできるというのは実にすばらしいことのように思う。

筆者はパソコン通信ができるようになる前はファックスで連絡していた。ある時、時間の読み間違いをしたため、ロス在住の友達のうちに真夜中に着いてしまった。その友人はファックス通信は安眠妨害になるので、時間を考えて送ってほしい旨のことを言われたことがある。筆者自身も安眠妨害されたこともあり、それ以降はパソコン通信だけするようにした。インターネットを開いてキーボードを打つとメッセージを打ち終わるまでかなりの時間がかかり、配信会社からの使用量の請求額も多くなるので、文面はまず、一太郎10かワード2000で仕上げ、それを編集機能のコピーと貼り付けで行うと経済的である。

ともかく、英文をパソコンで書くのは日本全体に広がっているようだ。これまではとかく欧米の人たちが書いたものを受信し、それを咀嚼・解釈することが多かったが、これからは、日本人はもっとパソコンの便利さを活用して、身近なことを英語で思いつくまま書く機会を多くし、受信・発信の均衡を50対50にしたいものである。

今はほとんど英語を忘れてしまったという人もパソコンでキーボードをたたいているうちに、潜在的にあった英語力が浮かび上がってくることもある。CIDE (Cambridge International Dictionary of English) の定義語2千語を調べたところ、カタカナ語としてわれわれの日常語として使われている語は約800語でその40%を占めていることが明らかになった。もちろん意味上のずれはあるが、英語の元の意味とほぼ同じ意味で用いられる場合がほとんどである。これらの日本語化した語句を近似カナ表記を用いて元の英語の発音に変化させると英語として通用するのではないかと考える人は少なくないだろう。しかしそれを実行に移している人はまだ少ないのではないだろうか。

現在、SI (school identity) ということが言われている (例: View 21 (9月号) ベネッセコーポレーション)。新学習指導要領では、「単位数や科目の設定を学校の裁量で行えるため、新課程カリキュラムには学校としてのスタンス、特色が色濃く反映される」(33頁)。とあり、各学校の創意工夫が奨励されるようになった。

11月は学会、研究会のシーズンである。筆者はEnglish through Englishの授業を伝統的に行っている筑波大学付属中学校の授業研究会に行き実際の英語の授業を見学したが、まさに創意工夫に満ちた授業であり、生徒一人一人が生き生きと学習に楽しく参加しており、時代の先端を行っていると感じた。中学1年のクラスでテキストの内容はニューヨークの時間と天気の様子を日本から携帯で聴くという設定であった。コミュニケーション重視ということが単にお題目ではなく、教案には、Communicative Activityとして、Guessing Gameのあとに、Making a Call to the U.S.とあり、手を挙げて志願した生徒3人は実際にミネソタ州に住んでいるアメリカ人の知り合いにWhat's the date today?, What time is it?, How's the weather?と携帯で聴くのである。そしてその答えをクラス全体で聞き取るのである。その中1の生徒はやさしい英語なら自由に話し、またネーティブが自然に話す英語を気楽に聞き取る

力がすでに備わっているのである。この子供たちが大人になる頃は現在よりもっとグローバルな交流が行われ英語を今の大人よりもずっと流暢に操ると思った。

われわれ大人も今の中学生に負けずにコミュニケーション力をつけようとすればどうすればよいだろうか。それはeメールで交流することであろう。誰でも、長い人生でこれまで出会った外国人は少なからずいるが、疎遠になるとついクリスマスカードの交換ぐらいになってしまう。思い切って時間を設け、日本に観光に来ないかどうかメールを出してみてもどうだろうか。日本に来たら我が家にホームステイをしてもらい、家族ともども日本の各地を旅行しようという提案をしてみても面白い。

まず、パソコンで外国の友達に日本に招待する文を書いてみることにしよう。日本のアトラクションというと古代からの文化の伝統と四季の変化の美しさを上げる人が多いだろう。豊かな文化の伝統に恵まれているにあたる英語は、

Japan is blessed with cultural traditions. Kyoto and Nara are rich in old temples and shrines. のように書けばよいだろう。また日本は山が多くまた海に囲まれ美しい景色が楽しめるという趣旨の英語は以下のようによいだろうか。富士山のことも追加しよう。

Our country is all surrounded by the ocean. And it has a lot of high mountains. Mt. Fuji has been considered to be one of the most beautiful mountains in the world.

また、日本には温泉が数多くある。温泉のこともPRしてみたい。ただし、温泉のもつ意味を表すには、hot springよりはspaのほうがよいようだ。英語辞典を見てもhot springの説明は味気ない。それに対して、spaは「湯治」の意味をもち、比較的詳しい説明が載っている(NODE (New Oxford Dictionary of English) より)。

hot spring: a spring of naturally hot water, typically heated by subterranean volcanic activity (天然の熱湯がわき出ている泉、ふつうは地下の火山活動に熱せられているもの)

spa: a mineral spring considered to have health-giving properties (人を健康にする特性をもっているといわれる鉱泉)

spaにはOALD 6版(2000)で、さらに次のような詳しい説明が掲載された。

a place where water with minerals in it, that is considered to be good for your health, comes up naturally out of the ground...(地下から自然に湧き上がってくる鉱水で、健康によいと考えられる)。(especially AmE) a place where people relax and improve their health with, for example, a swimming pool. (例えばプールで泳いだり、リラックスして健康を向上させたりする場所)

また、例文には、a super health spa which includes sauna, turkish bath and fitness rooms. (特上の健康回復のための温泉でサウナ、トルコ式バス、フィットネスなどがある)と説明がある。なお、アメリカでは円形で数人が同時に海水着を着て入る大きい湯船で噴水で体をマッサージする温泉のことをjacuzziと言う(〈Candido Jacuzzi (c. 1903-86) Italian-born American inventor)。

日本には温泉は2000箇所以上もあると言われている。温泉の雰囲気はspaを使う方がhot springよりもよく出るが、やはり、日本独特の温泉の雰囲気があり、Japanese-style spaとするのがよいであろう。

There are more than 2000 Japanese-style spas in Japan. When you come over to Japan, I would like to take you to some of them. It's really relaxing and enjoyable.

また、日本は四季それぞれに味わいがあるので、そのことをまとめて相手に伝えようとすれば次のようになるのかもしれない。まず、「四季」なら英語ではfour seasonsになり、複数の語尾sがつく。英語では「存在」を表現するときには「存在文」という構文があり、それは、there be~になる。この構文を用いて、以下のような2文を作ることができる。

There are has four seasons in Japan, They are spring, summer, fall and winter.

時間的にゆとりがあり、パソコンを使って見たいという読者は、上の文と以下に続く文を入力していただきたい。例えば、次のような文はどうだろうか。

In spring plants and trees wake up from their long winter's sleep. In April cherry-trees are in full bloom in the Kanto Area. Parks are filled with people enjoying the warmth of the season.

(茨城キリスト教大学教授)

## 英国Bowker-Saur社

Bowker-Saur社は出版物データベースの作成機関として知られており、国内でも多くの機関が印刷体またはCDで同社製品を利用しています。これらのデータベースは時代のニーズに合わせ、Web化されています。

### ULRICH'S PERIODICALS DIRECTORY™

#### Ulrichsweb.com

世界的に著名な定期刊行物データベース「Ulrich's International Periodicals Directory」のWeb版。

Version2.0にアップグレードし、言語・発行頻度による検索をサポート。

収録内容：全世界で出版される書籍情報25万件（一般誌、学術誌、新聞、電子ジャーナル、会議録継続書籍など）

年間購読価格：152,400円  
（1同時アクセス）より／更新頻度：毎週

### BOWKER'S BOOKS in PRINT®

#### Booksinprint.com

最も包括的な書籍データベース「Books in Print」のWeb版。

収録内容：全世界で出版される書籍情報240万件（絶版情報80万件、ビデオ・オーディオを含む）、出版社のコンタクト情報69,000件。

年間購読価格：236,600円  
（1同時アクセス）より／更新頻度：随時

## Web製品ミニアルバムキャンペーンご案内

（お申込期限 2001年3月末迄）

#### チャンス1

CDや冊子体とWeb版を組合せ購読した場合……

### CD・冊子体を50%割引

（既購読者は継続時に割引適用）

#### チャンス2

バックアップ用に……

### Archive CDを供給

（サービス開始時または終了時に1回のみ）

#### チャンス3

以下7製品より複数購読する場合……

### 10%の割引

Ulrichsweb.com / Booksinprint.com /  
Booksinprint.com with reviews /  
Lisanet.co.uk / BHInet / ASSIAnet /  
Literarymarketplace.com

●お申し込み・お問い合わせは、お気軽にどうぞ。 <http://www.usaco.co.jp/>

東京営業所  
tokyo-sales@usaco.co.jp  
Tel.03-3505-3256 Fax.0120-395-888

関西・東海営業所  
osaka-sales@usaco.co.jp  
Tel.06-6393-0303 Fax.06-6393-0617

日本協定代理店

〒106-0044 東京都港区東麻布2丁目17番12号

**ユサコ株式会社**

2000年11月 通巻第402号 日本洋書協会 編集者 高橋 紘  
☎103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4 千代田会館5階20号室 ☎(03)3271-6901 FAX.(03)3271-6920  
URL:<http://www.jaip.gr.jp> E-mail:[jaip@maruzen.ne.jp](mailto:jaip@maruzen.ne.jp)

印刷所＝藤本綜合印刷株式会社